

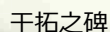


印旛沼の「干拓」について教えて!

印旛沼周辺では江戸時代の新田開発の頃から、度重なる干拓が行われてきました。今回は、干拓の歴史を振り返ってみましょう。

江戸前期から明治初期には、北印旛沼から利根川へ流れ出る「逆三角州」一体の新田開発が行われた。また沼に流入する河川の周辺でも新田開発が行われた。

大正から昭和初期にかけて、下井新田の名主で歌人であった吉植庄亮が、地元や凶作に苦しむ東北・北陸から入植者を募った「吉植農場」が開墾された。



現在の中央干拓地



臼井田スーパー水田

昭和21年に農林省による「印旛沼手賀沼干拓事業」が策定、31年には手賀沼を切り離した「印旛沼干拓土地改良事業」が決定した。38年からは当時の水資源開発公団に委託が行われ、水源として利用する面積を残して干拓する計画となり、昭和44年までに全て完成した。

佐倉市臼井田地区には「スーパー水田」と言われている、7.5ha(東京ドーム1.6個分!)の日本一広い田んぼがあります。



独立行政法人 みず し げん き こう
Japan Water Agency **水 資 源 機 構**

千葉用水総合管理所

千葉県八千代市村上3139(大和田機場横) TEL(047)483-0722

千葉用水 検索